



ベテラン外間2冠

九州卓球県予選

卓球の第64回全九州選手権大会県予選は20日、県総合運動公園体育館で行われ、男子シングルスは外間政克(外間)が優勝した。外間は工藤康彦(同)と組んだダブルスも制し2冠を達成した。

女子ダブルスは狩俣道乃(ス16強は、来年3月に那覇市民体育館で行われる全九州選手権大会の出場権を得た。

複は工藤と組んでV 38歳、試合巧者ぶり発揮

一般男子ダブルスで優勝した(左から)外間政克・工藤康彦組
県総合運動公園体育館(伊藤桃子撮影)

38歳の外間政克が、ベテランらしい安定した試合運びで単複2冠を達成した。新垣博之と対戦した単決勝では、「持っている引き出しは全部使った」と、巧みな技で翻弄(ほんろう)。我慢するところはついで相手のミスショットを誘い、甘いサーブは逃さず強烈なレシーブを放った。3-0の快勝に「甘い球かどうかの判断ができていた。向かっていった」と汗をぬぐった。工藤康彦と組んだ複決勝では、新垣・上江洲由太の若手ペアをストレートで退けた。「強いボールを打たせない」「(工藤)という作戦通りの展開。台上の勝負で優位に立ち」とこに球が返ってくるのか、イメージ通りに動けた。(外間)と、ペア歴20年近くの経験値を見せつけた。

狩俣・春組 女子複制す

試合で成長 決勝圧倒



女子ダブルス決勝 3-0のストレートと圧倒し、優勝した狩俣道乃(奥)・春満奈美組

ペアを組んで半年足らずの狩俣道乃・春満奈美組が女子複で頂点に立った。1球ごとに互いの動きを細かく確認。試合を重ねるごとに、自分たちが頑張ることが後輩の励みになる」と再び戻ってきた。「もっと強くなれる」と手応えを得た2人は、全九州選手権の目標を「優勝」に定めた。

7月末の全日本社会人選手権県予選に狩俣とコンビを組み出場。全国でもベスト32に入り、「自分たちが頑張ることが後輩の励みになる」と再び戻ってきた。「もっと強くなれる」と手応えを得た2人は、全九州選手権の目標を「優勝」に定めた。

女子単は津嘉山



津嘉山優子

女子シングルス優勝の津嘉山優子(決勝は1-2から逆転)第4ゲーム、負けたらどうしようと思わず、前向きに勝つことだけを考えた。短いサーブの返球が浮いてしまったのが反省点。苦手の前後の動きを強化して九州に臨みたい。

<p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>外間 3 11-8 新垣</p> <p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>新垣 博之 3-1 友寄 隆太 (琉球大)</p> <p>波平 卓哉 (沖国大)</p> <p>上江洲由太 3-2 末吉 孝嗣 (琉球大)</p> <p>外間 政克 3-2 末吉 孝嗣 (琉球大)</p>	<p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>津嘉山 3 11-8 11-9 0 新垣</p> <p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>津嘉山 優子 3-0 西銘 成美 (沖国大)</p> <p>奥平 真樹 3-2 大嶺久美子 (金城フア)</p> <p>高城のどか 3-1 川崎 南 (系満市役)</p>	<p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>津嘉山 3 11-13 7-11 6-11 11-3 2狩</p> <p>▽ダブルス準々決勝</p> <p>津嘉山 優子 3-0 大嶺久美子 (金城フア)</p> <p>西銘 成美 (金城フア)</p> <p>奥平 真樹 3-2 山根 由 (上江洲有)</p> <p>大城 佳穂 (上江洲有)</p> <p>高城のどか (上江洲有)</p>	<p>▽同準決勝</p> <p>狩俣 道乃 3-0 春満 奈美 (ス16強は、来年3月に那覇市民体育館で行われる全九州選手権大会の出場権を得た。)</p> <p>津嘉山 3-1 奥平 真樹</p> <p>▽同準決勝</p> <p>津嘉山 3-1 奥平 真樹</p> <p>▽同準決勝</p> <p>津嘉山 3-1 奥平 真樹</p> <p>▽同準決勝</p> <p>津嘉山 3-1 奥平 真樹</p>
---	--	--	--